

SID R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第1巻第27号

第40週(10月1日～10月7日)

発行年月日:平成13年(2001年)10月16日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～4類)

感染症類型	疾患名	報告数 (40週)	累積報告数 (1週～40週)
1類感染症	報告なし	-	-
2類感染症	細菌性赤痢	0	4
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	43
4類感染症	アメーバ赤痢	0	5
	急性ウイルス性肝炎	0	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1
	後天性免疫不全症候群	0	3
	ジアルジア症	0	1
	梅毒	1	3

2) 定点把握の対象となる4類感染症

疾患名	定点当たり患者数		
	40週	増減	34～39週の平均
インフルエンザ	0		0
咽頭結膜熱	0.04		0.15
A群溶連菌咽頭炎	0.08		0.14
感染性胃腸炎	0.60		0.70
水痘	0.48		0.33
手足口病	0.31		0.30
伝染性紅斑	0.25		0.15
突発性発疹	0.27		0.39
百日咳	0.02		0
風疹	0		0.01
ヘルパンギーナ	0		0.25
麻疹	0		0.02
流行性耳下腺炎	0.48		0.62
急性出血性結膜炎	0		0
流行性角結膜炎	0.43		0.45
急性脳炎	0		0
細菌性髄膜炎	0		0
無菌性髄膜炎	0.29		0.10
マイコプラズマ肺炎	0.29		0.21
クラミジア肺炎	0		0
成人麻疹	0		0

* 増減は、34週～39週の平均に対する今週との比較

増加 減少 変化なし

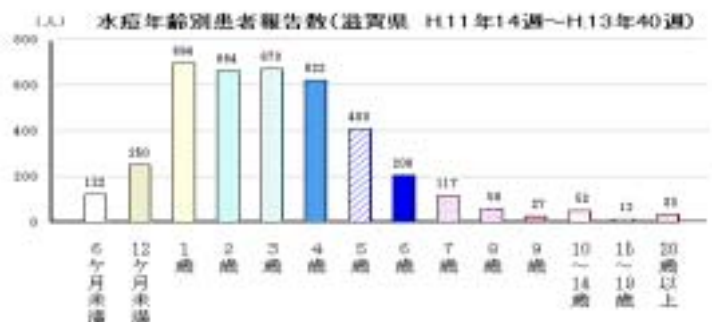
* **太字**は、今週の注目される疾患です。

3) 今週のトピックス

患者情報

滋賀県における定点当たり患者数について、34～39週の平均と40週を比較すると、水痘、手足口病、伝染性紅斑、百日咳等に増加傾向が見られます。また、水痘については、平成11年および平成12年と同様に、今後、患者数が増加する可能性があるため注意が必要です(2～3ページのグラフ参照)。

水痘の年齢別患者報告数(H.11年14週～H.13年40週)は下記のグラフのとおりです。



水痘:

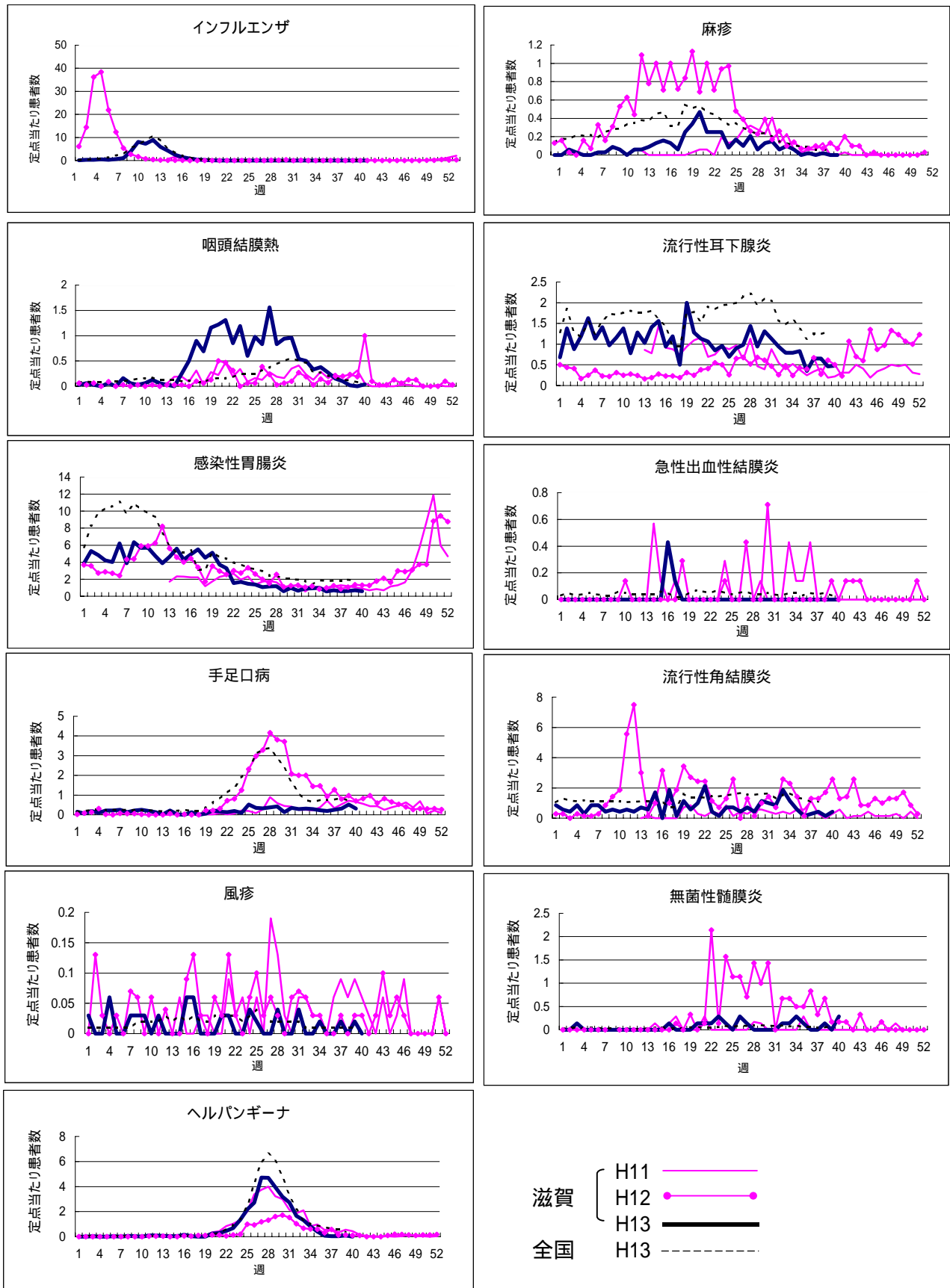
水痘帯状疱疹ウイルスによっておこる急性の伝染性疾患です。潜伏期間は、2週間程度で発疹の出現がおもな症状です。疫学的には、世界中に分布しており、伝染力は麻疹よりも弱くムンプスや風疹よりも強いとされています。予防としては、感染源との接触をさけることですが、水痘ワクチンの接種によっても抗体を獲得することができます。



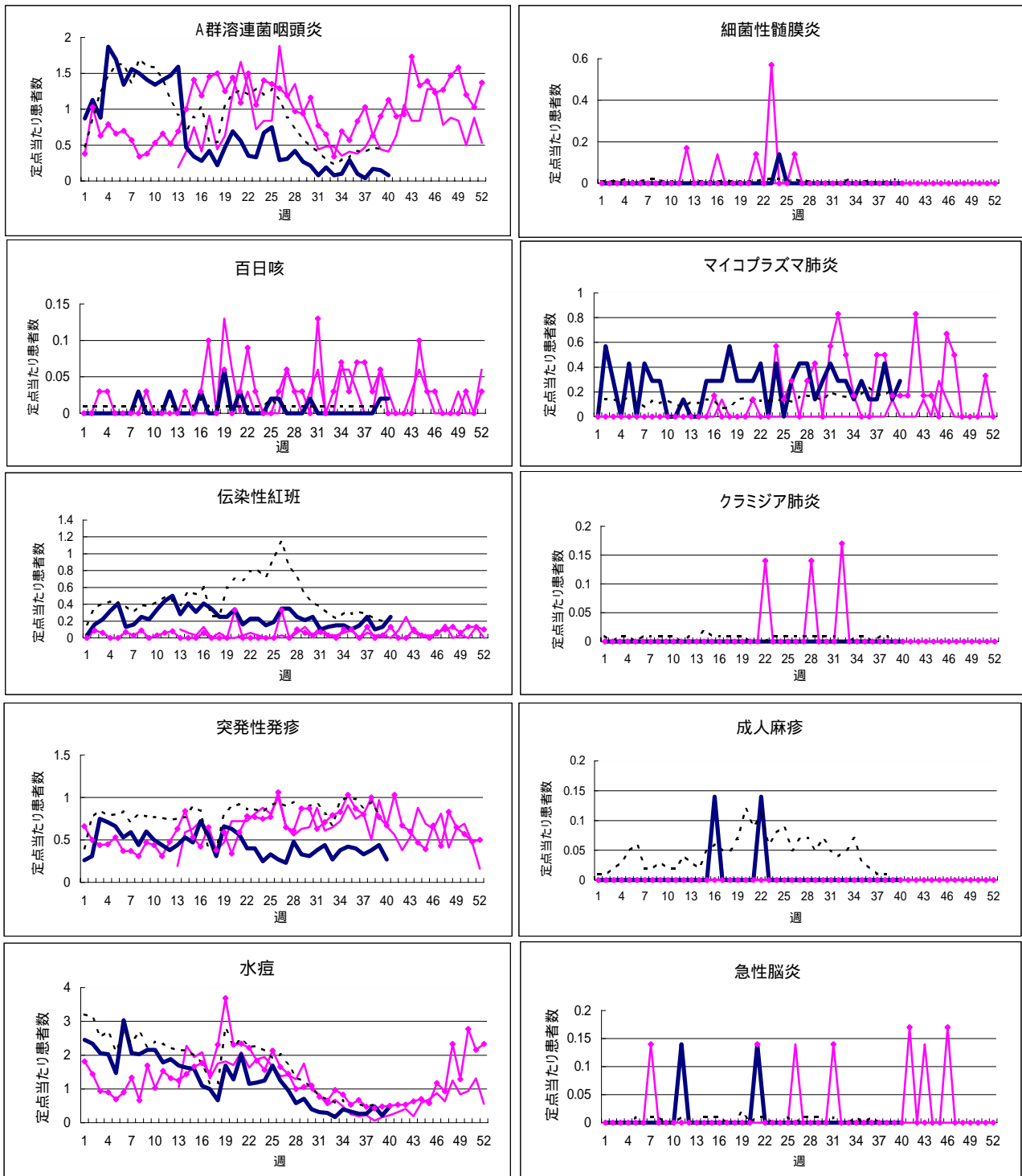
全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**において公表されています。

(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

疾病別定点当たり患者数(平成13年第1週～第40週)



疾病別定点当たり患者数(平成13年第1週～第40週)



滋賀 { H11 ————
 H12
 H13 ————
 全国 { H13 - - - -